

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【公開番号】特開2003-127608(P2003-127608A)

【公開日】平成15年5月8日(2003.5.8)

【出願番号】特願2001-323856(P2001-323856)

【国際特許分類第7版】

B 6 0 B 35/18

F 1 6 B 21/18

F 1 6 C 19/18

【F I】

B 6 0 B	35/18	A
---------	-------	---

F 1 6 B	21/18	F
---------	-------	---

F 1 6 C	19/18
---------	-------

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月6日(2004.9.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

上記内側、外側両係合溝45、46及び止め輪44の寸法を上述の様に規制する為、この止め輪44を内側係合溝45部分に装着した状態で、上記外輪3aを上記ナックル30の支持孔32に挿入すれば、前記車輪用軸受ユニット1aと上記ナックル30とを不離に結合できる。即ち、上記外輪3aをこのナックル30に対し結合する場合には、上記止め輪44を上記内側係合溝45部分に装着した状態で、上記外輪3aを上記支持孔32に、外側から内側に、図1、2の左から右に挿入する。この挿入作業により上記止め輪44は、上記支持孔32の外端部に形成した円すい凹面状のガイド面48に案内されつつ、外径が弾性的に縮められて、上記支持孔32内に押し込まれる。そして、上記止め輪44と外側係合溝46とが整合した状態で、この止め輪44の直径が、この止め輪44の外周縁が上記外側係合溝46の底面に当接する状態に迄、弾性的に広がる。そして、この様に止め輪44の直径が弾性的に広がった状態で、この止め輪44が上記内側、外側両係合溝45、46同士の間に掛け渡された状態になって、上記外輪3aが上記支持孔32から抜け出る事が防止され、上記車輪用軸受ユニット1aとナックル30とが不離に結合される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

上記ナックル30に車輪用軸受ユニット1aを結合する場合には、上記止め輪54を上記内側係合溝45部分に装着した状態で、上記第一、第二各腕部56、57を上記凹入部47aに整合させつつ、上記外輪3aを上記支持孔32に、外側から内側に、図7の左から右に挿入する。この挿入作業に伴って、上記止め輪54は、上記支持孔32の外端部に形成した円すい凹面状のガイド面48に案内されつつ、本体部55の外径が上記支持孔32の内径以下に弾性的に縮められて、この支持孔32内に押し込まれる。そして、上記本体部55と外側係合溝46とが整合した状態で、この本体部55の直径が、この本体部5

5 の外周縁が上記外側係合溝 4 6 の底面に当接する状態に迄、弾性的に広がる。そして、この様に本体部 5 5 の直径が弾性的に広がった状態で、この本体部 5 5 が上記内側、外側両係合溝 4 5、4 6 同士の間に掛け渡された状態になって、上記外輪 3 a が上記支持孔 3 2 から抜け出る方向に変位する事が防止され、車輪用軸受ユニット 1 a とナックル 3 0 とが不離に結合される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】

